

## 和而不周

酷暑が去り、そよ風に秋の便りを感ずる時節である。思い返せば、あつという間の梅雨明け宣言が始まった今年の夏。真つ赤に染まった週間天気予報の帯も、その色合いが次第に薄らいできた▼ことわ

ざ『喉元過ぎれば熱さを忘れる』。《辛  
いことや苦しいことがあっても、その痛  
みは時が過ぎればやがて忘れてしまう》  
というたとえだ。一理ある反面、心を蝕  
む痛みというのは「そんなに甘くない  
ぞ」と言いたくもなる▼熱々のスープも  
いざ飲み込めば「熱さ」自体は感じない  
が、それにより生じた喉のやけど・口内  
炎による苦痛はその後も持続する▼心理  
学者エビングハウスは『人間は忘れる生  
き物である』と称す。だがいくら何でも  
昨今の世情は「過ぎたからこれでもう終  
わり」、あるいは「過ぎたらどの道忘れ  
るだろう」という理屈が、何の検閲もな  
しに幅を利かせすぎている気がしてなら  
ない▼そうした実情に胡坐をかき、国論  
を分断するような案件でさえも強引に進  
めてしまうこともしばしば。異なる立場  
の意志の一切を蔑ろにすることは、決定  
権を持つ側の所作としてはあまりに無作  
法ではないだろうか▼「聞く力」を發揮  
せず、高を括ることが平常運転となつて  
しまった。こんなに哀れなことはない。

〔徳〕

